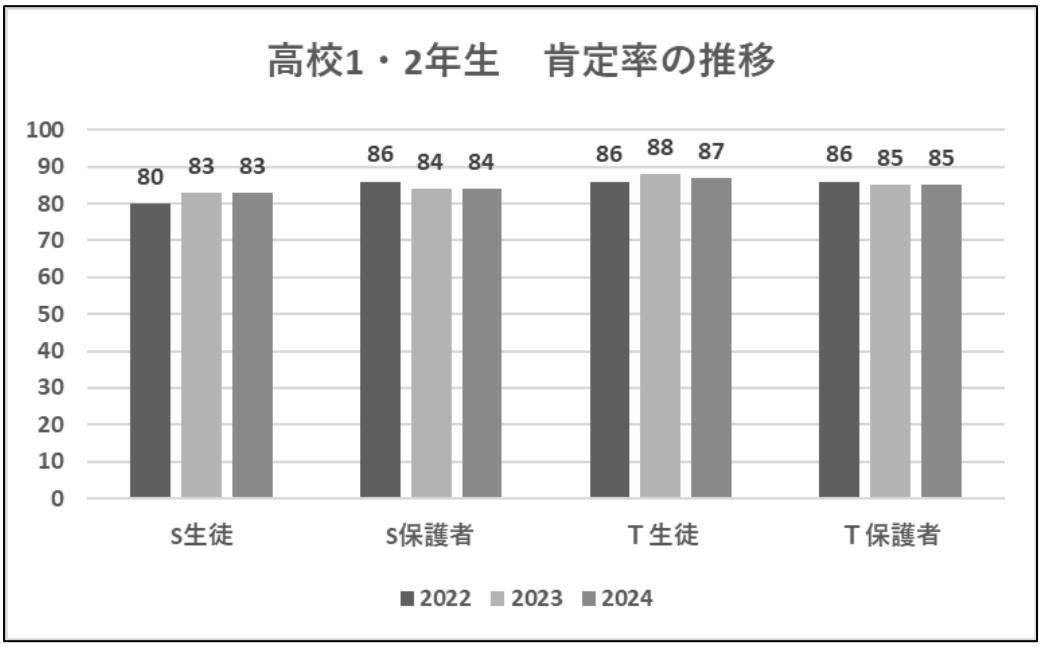
2024 年度高校１・２年生（Ｓコース・Ｔコース）総括

１．生徒・保護者の過去３年間（2022 年～2024 年）の全質問項目の肯定率（それぞれの質問に対してそう思う、ややそう思うと回答した割合）の平均（%）の推移　（数字は左から 2022 年、2023 年、2024 年のデータ）

Ｓコース生徒：80・83・83　　Ｓコース保護者：86・84・84

Ｔコース生徒：86・88・87　　Ｔコース保護者：86・85・85



＊この調査においては、肯定率 80%以上は高い評価であると判断する。

＊2023 年度は、Ｓコース･Ｔコースとも生徒の肯定率は上昇した（上昇の要因については、前年度の総括で分析している）。

＊2024 年度は、Ｓコース･Ｔコースの生徒・保護者の肯定率は、ともにほぼ横ばいで、ここ 3 年間は 80%台なかごろで安定している。

２．高校１・２年生の質問項目 1、5、7、8、19、21 の過去３年間（2022 年～2024 年）の肯定率（%）の推移（数字は左から 2022 年、2023 年、2024 年のデータ）

（１）「本校に入学して良かった」　Ｓコース：83・83・84　Ｔコース：88・92・88

（５）「授業内容の理解」　Ｓコース：71・75・74　Ｔコース：75・81・77

（７）「能力・個性に応じた適切な指導」　Ｓコース：75・78・78　Ｔコース：82・83・80

（８）「クラブ活動の満足度」　Ｓコース：85・86・89　Ｔコース：85・90・88

（19）「進路実現等に向けた学力向上」　Ｓコース：75・82・89　Ｔコース：88・91・91

（21）「学校行事の充実」　Ｓコース：78・75・69　Ｔコース：86・87・82

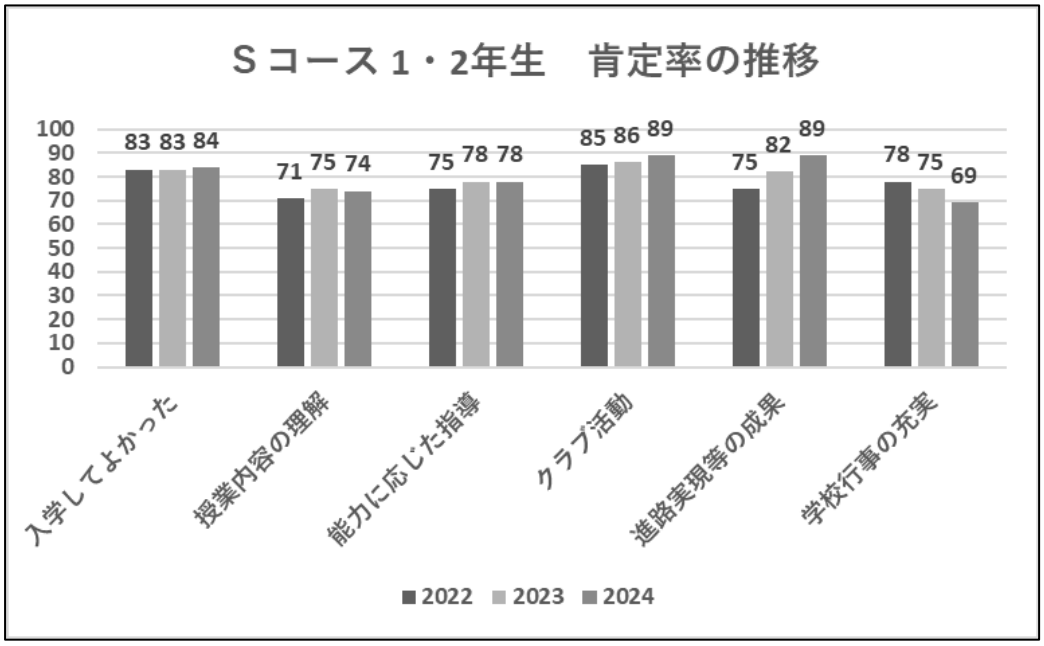
＊質問項目（５）「授業内容の理解」の肯定率は、昨年は両コースとも上昇したが、本年はＴコースで低下した。基礎・基本が十分に身についていない生徒に対する指導法の研修を重ねるとともに、生徒の興味･関心を喚起するため、ICT 機器やワイドプロジェクターの活用法の研究を図り、さらなる授業改善に努める必要がある。Ｓコースについては、昨年とほぼ横ばいであるが、まだ４分の１は授業内容が理解できていない状況が続いている。教員が小テストなどを通じて日常的な授業の理解度を確認しながら、対象の生徒たちに最も適した授業改善を図っていく必要がある。

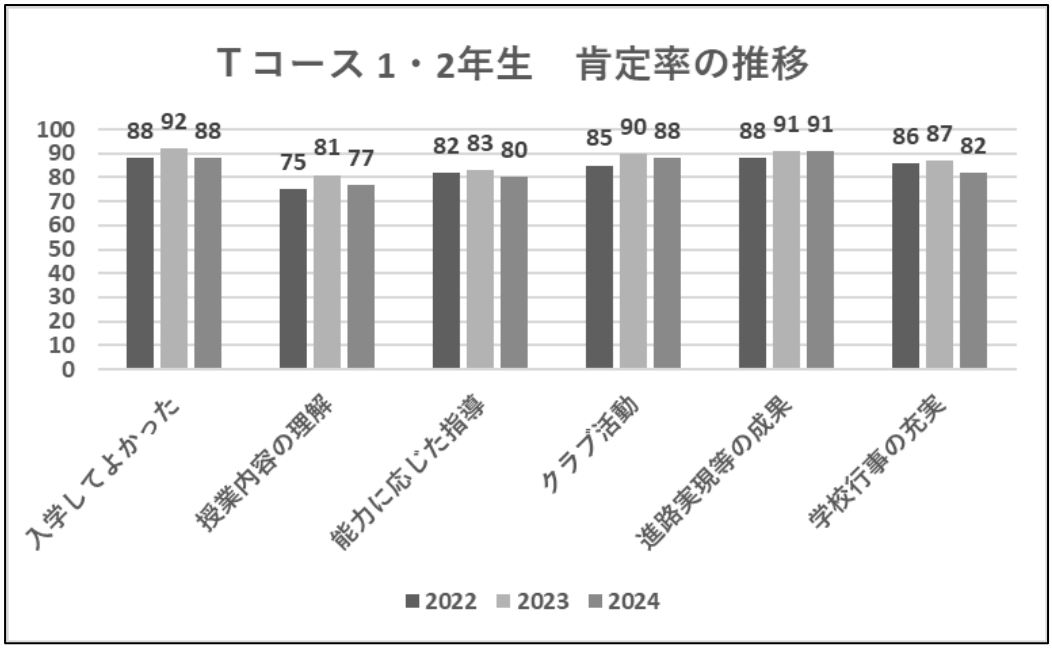
＊質問項目（７）「能力・個性に応じた適切な指導」の肯定率は、Ｔコースで低下している。本年度新たに導入した放課後学習会は、高校生にとってうまく機能したとはいえない状況であり、さらなる改善をはかるべきである。これからは教員の働き方改革を見据え、従来のような充実した放課後学習を実現できるよう、委託業者との連携を密にしながら、生徒個々のニーズに合った放課後学習会の構築をめざしたい。

＊質問項目（８）「クラブ活動の満足度」については、Ｓコースで上昇している。Ｓコースのなかでもクラブ活動に参加する生徒が徐々に増えてきている現状が素直に数値に表れている。Ｔコースはわずかながら低下しているが、満足度としてはたいへん高い数値を示している。これは本年も多くのクラブが全国大会出場を果たし、また野球部とともに応援指導部・吹奏楽部が貴重な体験を積むことができたことの表れともいえる。これからも生徒主体のクラブ運営を中心に据え、いっそうのクラブ活動の充実を図っていきたい。

＊質問項目（19）「進路実現等に向けた学力向上」の肯定率は、Ｓコースでここ数年大きく伸びている。本年度は、平日や長期休暇中の補習・講習の強化に努めるとともに、難関大学に対応した模試を導入することで、旧帝大を中心に難関大学へ多くの合格者を輩出することができた。今後はより多くの生徒が自分の第一志望を実現できるよう、進路指導部主導のもとで、これまで以上に個々の学力に応じた補習・校内予備校・放課後学習会のあり方を構築するとともに、日頃の授業改善に向けた研修体制を整備していきたい。

＊質問項目（18）「学校行事の充実」の肯定率はＳコース・Ｔコースともに大幅に低下し、Ｓコースでは３分の１近くの生徒が行事に満足していない。生徒にとって文化祭・体育祭などの学校行事の内容が満足できるものなのかをいま一度検証し、生徒の主体性を活かしつつ、すべての生徒が楽しめ、かつ学びのある行事が実現できるように改善していく必要がある。





３．肯定率が 70%以下だった質問項目（高校１・２年生徒・保護者別 今年度←昨年度）

Ｓコース生徒は２項目（項目２と項目 21）、Ｔコース生徒は０項目。

Ｓコース保護者は１項目、Ｔコース保護者１項目（ともに項目５）。

（２）「本校生であることの誇り」	Ｓコース生徒 69%←69%
（５）「授業内容の理解」	Ｓコース保護者 69%←68%
	Ｔコース保護者 69%←71%
(21)「学校行事の充実」	Ｓコース生徒 69%←75%

＊「本校生であることの誇り」について、Ｓコースの生徒の肯定率は昨年とは変化していないが、満足度が高いとはいえない。すべての生徒が活力ある学校生活を送り、本校生としての誇りを持てるよう、本年度創設した観想の華賞などのように、生徒個々の有用感を高めていくための取り組みを工夫していく必要がある。また「授業内容の理解」については、Ｓコース・Ｔコースの保護者の肯定率がともに 60%台にとどまっている。保護者に生徒たちの成績の伸びが実感してもらえるよう、授業評価アンケートをもとにした授業の改善を図ることに加えて、、学外評価委員の提言にもある「柔軟に外部人材の活用を積極的に」おこなうことで、生徒の学力向上に繋げる施策を考えていく必要がある。なお「学校行事の充実」については、2 の質問項目（18）の分析を参照されたい。

４．総括コメント

本年度の「生徒による授業評価アンケート」は、５教科の授業を中心に１学期末と２学期末に実施した。その結果をふまえて実施した「授業評価アンケートに対する教員の意識と実態についての調査」では、ほとんどの教員が「今回の授業評価アンケートの結果は、自らの授業改善に役立つと思う」と前向きに捉え、1 回目から 2 回目にかけてアンケート数値が向上している教員も多くいた。新課程 1 年目の大学入試であったが、共通テストの出題傾向はこれまでと大きくは変わらなかったため、昨年まで増加傾向にあった「思考力の育成」よりも、「指導方法・指導技術など授業スキルの向上」を課題にあげた教員が最も多かった。難関大学への進学実績のよりいっそうの向上のためには、共通テストの指導はもちろん、個別学力試験に対応できる学力を養成することが不可欠である。その目的達成にむけて、「授業評価アンケート」をもとに教員が授業力向上に向けて自己研鑽に励むことはもちろん、さまざまなチャンネルを活用した研修体制を整備することで学力の三要素をバランスよく伸ばし、すべての進路に対応した授業の実現をめざしていきたい。

大学進学については、高校入学生から九州大学・横浜国立大学・岡山大学・兵庫県立大学をはじめとした国公立大学に 51 名（準大学を含む)、中高一貫コースをあわせると 78 名が合格し、過去最高の実績を収めることができた。また私立大学については、東洋大学に 14 名、早稲田大学など関東圏の大学をはじめ、関関同立に 25 名（中高一貫コースをあわせると 36 名)、産近甲龍に 77 名（中高一貫コースをあわせると 101 名）と、難関大学にも多くの合格者を出すことができた。さらに就職や専門学校へ進学する生徒を含め、Ｔコースの生徒は、各自の希望に応じて多様な進路実現を果たしている。本校の生徒・保護者の大学進学希望数は年ごとに増えてきており、学力向上と進路実現に向け、本年度は放課後学習会を本格的に運用し、それぞれの適性に応じた模試の導入をすすめた。しかし現在の教育課程は、各コースの特性に応じたものになっているとは言いがたい。放課後学習会は十分に機能したとはいえなかったため、次年度は業者との連携を強化し、放課後デザインタイムのさらなる充実を図りたい。こうした進路指導体制について、学外評価委員からは、「合格者数の伸び悩みをみると、教員レベルの底上げが進んでいないこと、特に授業力が改善していないこと、そして、特定の教員集団のマンパワーで国公立大を中心に実績を積み上げてきたが、そろそろ限界がきたのではないかと感じる。全てを自分たちの力でやるという考えは改めないといけないと思う」という提言をいただいている。次年度は、これまで国公立大学推薦プロジェクトなどを通じて蓄積されてきた総合型・学校推薦型で国公立大学に合格させるためのノウハウを生かしながら、授業改善とともに校内予備校・放課後学習会を含めた補習・講習などの進路指導体制のいっそうの充実を図ることで、一般入試に向けての学力向上をめざし、国公立大学合格者の大幅増加をめざしたい。

クラブ活動では空手道部・剣道部・柔道部・卓球部そして野球部が全国大会に出場し、地域活性部は環境省などが主催する「第 10 回全国ユース環境活動発表大会　近畿地方大会」で審査委員特別賞を受賞するなど、大きな成果をおさめた。今後は運動部だけでなく、文化部も大会・コンテストへの参加を目標に活動計画を立案するなど、生徒の意見も積極的に取り入れながら、クラブ活動のさらなる充実に努めたい。

本年度の高校入試では、第 4 学区の生徒数減少の煽りを受ける形で前期入試の志願者が昨年の 3979 名から 3739 名と 240 名減少した。しかし歩留率は予想以上で、４月には 63 期生として 321 名＋一貫 78 名の計 399 名が入学予定である。このように定員をほぼ確保できた背景には、斬新な動画作成や 100 万回以上の再生回数を誇ったインスタグラムの導入など新たな広報戦略が功を奏したところも多い。次年度は本校を第一志望とする志願者のさらなる増加をめざし、入試改革を進めるとともに、東洋ブランドをさらに高めることができるような広報活動を展開していきたい。

以上の総括をふまえ、本年度の「授業評価アンケート」と「学校評価アンケート」の結果を全教職員が謙虚に受け止め、日々の授業の充実と改善に努めながら、東洋大学附属姫路高等学校のさらなる進化と飛躍をめざして取り組んでいきたい。

５．2025 年に向けた課題

（１）各コースの目標に即した新しい教育課程を編成するとともに、シラバスを作成する。

（２）生徒の授業内容の理解を高めるよう、教員が自己研鑽できる機会を増やすとともに、教員の授業研修体制をよりいっそう整備し、国公立・私立の難関大学合格者の増加につなげていく。

（３）学校評価の要請を受けて、共通テスト対策、私立・国公立二次試験対策など、外部人材の活用を図りながら校内予備校や補習･講習を強化し、生徒個々に応じた放課後学習会の構築をめざす。

（４）グローバル教育の充実に向けて、現在のプランを再検討するとともに、学内でのグローバル化をめざした取り組みを強化する。

（５）すべての生徒が楽しめ、学びのある行事になっているのかという観点をふまえ、文化祭・体育祭等の学校行事の見直しを進める。